

第 103 回大腸癌研究会 病理委員会 議事録

日時：令和 7 年 7 月 3 日（木）午前 10：00～11：30

場所：ザ・グランユアーズフクイ（ホテルフジタ福井）3 階 第 2 会場（瑞雲）

議長：菅井 有 出席者（敬称略）：新井富生、市川一仁、上杉憲幸、河内 洋、小嶋基寛、岸本光夫、菅井 有、杉本 亮、牛久哲男、八尾隆史、斎藤彰一、下田将之、門松雄一朗、森永友紀子、村田幸平、谷 優佑、味岡洋一、藤島史喜、上野秀樹、宮沢善夫、金子明央、高橋佑月、山田一隆、村上圭吾、藤吉健司、九嶋亮治、名西健二、櫻井紀子、萩野大一、大石琢磨 塚田祐一郎 岡田一秀、佐村博範（計 39 名：現地参加 33 名、web 参加 6 名）

報告事項

1. 小腸癌取扱い規約刊行の報告（河内）

小腸癌取扱規約が刊行され、河内先生より報告があった。

2. Leeds 大学 Dr. Nick West との CRM についてのミーティング報告（河内）

Leeds 大学と日本の検体取扱の現状などについてを意見交換を行った。CRM (Circumferential resection margin) 評価については、腸管を輪切りにする方法でも開いて評価する方法でも、結果に影響を及ぼさない可能性が報告された。

討議内容

1. 神経内分泌腫瘍の組織分類および T 分類について（河内）

NEN の日本語表記併記は、WHO 第 6 版の記載を参考に検討することとなった。“Carcinoid tumor”の使用理由”について、河内先生から説明があり承認された。MiNEN/MANEC に関しては WHO 第 6 版の刊行タイミングを見てメール審議を行い、来年の 1 月を目途に原案を決定する方針とした。NET の腫瘍径の測定には明確な定義がなく、具体的な方法については、次回 1 月に再度報告してもらう。

2. 取扱い規約に掲載する虫垂の項について（岸本、八尾、新井、村田）

WHO 第 6 版の状況に準じて変更点が提示された。虫垂粘液性腺腫に関して説明された。グレード分類の記載はステージ分類に影響するので、再度整理する事となった。WHO 第 6 版を踏まえ、次回、最終報告してもらう。

3. プロジェクト研究案「pT3, pT4 大腸癌の病理診断均霑化（ELI を含めて）」（小嶋）

小嶋先生からプロジェクト研究案が提示された。pT3, pT4a の診断基準を確定のためにプロジェクトを進めることが報告され、病理委員会で支援、協力していく方針とした。

4. 胃癌取扱い規約における Tis の導入と大腸癌との比較（九嶋）

胃癌取扱規約 16 版から Tis を導入するが報告された。大腸癌においても同様の議論を進めるべきか、味岡会長の意見を伺いながら進める方針となった。

5. その他

規約改訂委員会上野委員長から、洗浄細胞診の診断に関し、次の規約でより細分化するかどうか病理委員会の方針をまとめるように依頼があった。委員長が各委員とメール審議を行い、次回の病理委員会で結論を出す方針とした。（文責 岩手医科大学 杉本亮）